

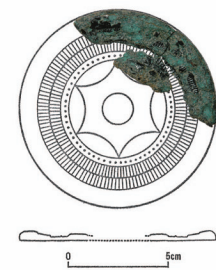
## IV エピローグ



縄文人骨  
岩下洞穴 10,000年前



足形土偶  
天神洞穴 4,000年前



銅鏡  
岩谷口第2岩陰 1800年前

佐世保市は、31か所の洞窟遺跡を有する日本一の洞窟遺跡のまちです。その中でも、様々な年代の洞窟遺跡について展示紹介します。



白磁椀・土師器  
牽牛崎洞穴 14世紀



石鍋(滑石製)  
龍神洞穴 12世紀



古銭  
不動明王谷岩陰 江戸時代



史跡福井洞窟 遠景

### いざ、フィールドへ!

レンタサイクルで史跡福井洞窟にいこう。  
現地までは、音声ガイドアプリ「福井洞窟WEBガイド」がおすすめ。福井洞窟以外にも、史跡や石橋、希少な植物も必見。



福井洞窟  
WEBガイド

## 体験するミュージアム 楽しみ方いろいろ

### くらし体験室

くらしをテーマに古代の衣装や土器パズルなどの無料体験ができます。勾玉づくりや縄文土器づくりなどのワークショップを定期的に行います。



### インフォメーション

インフォメーションでは、ミュージアムグッズや書籍の販売、レンタサイクルの貸し出しを行っています。



トリックアートパネルで写真を撮ろう。

### 福井洞窟図書コーナー

子どもからも楽しめる考古学初心者向けの図書や考古学、郷土史に関する書籍で学習できます。



福井洞窟ミュージアム  
Fukui Cave Museum

福井洞窟ミュージアム 利用案内



開館時間: 9:00~17:00 休館日: 月曜日(祝日の場合は次の平日)、年末年始(12/29~1/3)  
〒859-6326 佐世保市吉井町立石473番地  
TEL・FAX: 0956-64-3830 (福井洞窟ミュージアム)

発行: 佐世保市教育委員会 2021年3月

佐世保市教育委員会



# I 福井洞窟のシンボル



福井洞窟の発掘調査現場をほぼ原寸大で再現。現場から移設された地層とともにドラマチックな映像と大音響で旧石器から縄文時代の世界を体感できます。  
ジオラマ上映時間: 約5分 (毎時00分・15分・30分・45分)



「炉」の跡 (レプリカ)  
12層から出土し、石の状態から300℃以上の熱を受けていたことが推定される。1万7700年前に火を使用していた痕跡。

石敷(レプリカ)  
約1万9000年前(13層)の遺構。地面を整地して利用していたと考えられている。

# II 通史展示

通史展示では、人類と洞窟の関わり方を古い時代から新しい時代にかけて剥ぎ取った地層を目印に年代順に紹介します。発掘調査によって発見された各層の遺構や遺物から洞窟でのくらしぶりわかります。



- ① 洞窟のはじまり (15層)
- ② 洞窟でのくらし (12層)
- ③ 洞窟と災害

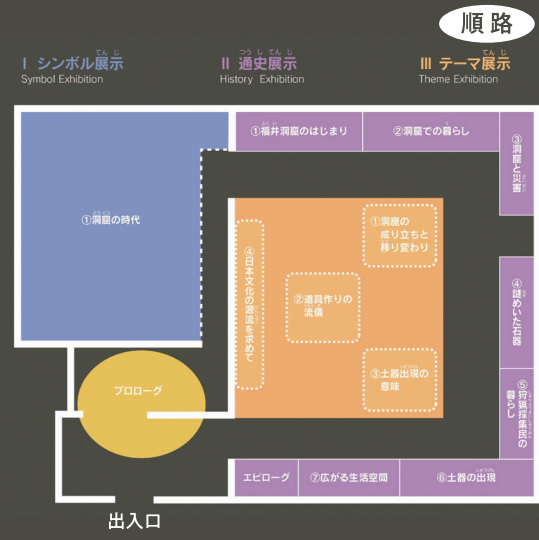
土砂崩れの様子 (ジオラマ)

- ④ 謎めいた石器 (7-9層)
- ⑤ ハンターの拠点 (4層)
- ⑥ 土器の出現 (2・3層)
- ⑦ 洞窟利用の変化 (1層)

イラスト 早川和子

## 展示室の歩き方

展示室は、シンボル展示、通史展示、テーマ展示と大きく3つのゾーンで構成されています。



**展示室のマナー**

禁止事項  
展示室内では以下の事項を禁止します

- フラッシュ撮影
- 飲食
- 携帯電話の使用
- 資料に触れる
- 走る

# III テーマ展示

福井洞窟をテーマごと展示解説します。「福井洞窟の成り立ち」や「石器の作り方」の映像などわかりやすく紹介します。

また、福井洞窟の発見やその考古学研究に携わった人物に焦点をあてて解説します。



福井川ができた後



材料となる黒曜石 (根引池遺跡)

## ★道具のつくり方

安山岩や黒曜石などを加工し、狩りや調理に使用する道具など多種多様な石器が作り出されました。石器を作る技術を映像とパネルで解説。



「細石刃の作り方」(映像約4分)  
石器づくりの名人が細石刃の作り方を熟演

## ★土器出現の意味

縄文土器は縄文時代に作られたやきもの。福井洞窟の調査では、日本列島最古級の「隆起線文土器」が出土。わずかな土器片にスポットをあてつつ、土器全体を想像したレプリカを展示しています。



始源土器を一挙公開



隆起線文土器(レプリカ)

## ★旧石器時代と縄文時代は違う暮らし?

旧石器時代が獲物や狩りを中心に、移動する「遊動生活」。対して、縄文時代になると安定した住居にとどまり生活を営む「定住生活」に変化していきます。土器出現の意味とともに生活の変化について解説します。



暮らしの変化(旧石器時代→縄文時代)

## 学史展示 ~60年ぶりの里帰り展~

昭和30年代の発掘調査で出土した資料を展示しています。福井洞窟の発掘調査研究を先導した東北大学と岡山理科大学の所蔵資料が約60年ぶりに里帰り、展示しています。

このコーナーでは福井洞窟を発見した郷土史家松瀬順一氏や昭和30年代の発掘調査をけん引した考古学者の芹澤長介氏、鎌木義昌氏について関連資料とともに展示します。



昭和30年代の発掘資料  
岡山理科大学 東北大学所蔵



昭和30年代の発掘当時の様子

## 土製・石製有孔円盤

昭和38年の発掘調査で第2トレンチから出土した有孔円盤形土製品。隆起線文の付いた有孔円盤形土製品は土器として利用したのち、第2の道具として再利用したと考えられています。ペンダントなどの装飾品、または祭祀的道具ではないかとの見解もあります。



土製・石製有孔円盤